

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

13

帽子の色 白

帽子の色 青

鳥羽

9

2	-	7
1	-	4
3	-	3
3	-	2
PSO		

前橋商業

16

審判1： 坂井 奎太

審判2： 御崎 智徳

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口県きらら博記念水泳プールにて、鳥羽高等学校（白帽）と前橋商業高等学校（青帽）が対戦した。全国屈指の強豪として連覇を重ねてきた鳥羽高校と、関東王者として勢いに乗る前橋商業高校の一戦は、今大会屈指の好カードとして大きな注目を集めた。

試合の先制点を挙げたのは前橋商業高校であった。試合開始直後、④齋藤が巧みな動きで相手を退水に追い込み、素早いパス回しの末に⑥前田が冷静に押し込み得点。さらに③深澤や②関口が積極的にシュートを放ち、序盤から攻撃のリズムを作った。特に⑥前田は、16歳の時にU18水球世界選手権日本代表に選ばれた経歴を持つ逸材であり、この日も持ち味であるフィジカルの強さとゴール前での判断力を発揮し、早くも大きな存在感を示した。

対する鳥羽高校もすぐに反撃を開始する。③園が強気な仕掛けから得点を奪い、④渡邊も鋭いワンタッチシュートを決めて食らいつく。GK①松村も好セーブを連発し、簡単には突き放されない。守備では組織的なディフェンスを徹底し、相手のシュートコースを限定するなど、王者としての粘りを随所に見せた。しかし、前橋商業の勢いは止まらず、第1ピリオドを7-2と大きくリードして終えた。

第2ピリオドに入ると、鳥羽高校は④渡邊や③園を中心に再び攻撃の糸口を探る。相手ゴール前で退水を誘発する場面も増えたが、決定機で得点に結びつけられず、やや苦しい展開となった。ここで光ったのは前橋商業の多彩な攻撃力であった。⑦星のスピードを活かしたカウンター、⑤椎名の強烈なミドルシュート、そして④齋藤の冷静なペナルティシュートが立て続けに決まり、前半を11-3と大きく引き離して折り返す。

それでも、鳥羽は簡単には崩れない。第3ピリオドでは④渡邊がミドルシュートを叩き込み、③園が右サイドから鮮やかに相手をかわして得点。さらにGK①松村が好セーブでチームを鼓舞し、相手の連続攻撃をしのいだ。④渡邊はペナルティを獲得して自ら沈めるなど気迫を見せ、観客を沸かせた。前橋商業も④齋藤や③深澤を中心に追加点を奪ったが、このピリオドは互いに譲らず3-3の五分で終えた。鳥羽の粘り強さと前橋の安定感がぶつかり合い、試合は一層白熱した。

最終ピリオド、鳥羽高校は最後の力を振り絞り③園のカウンターや④渡邊の鋭い回し込みで得点を重ねた。終了間際には⑦廣瀬が退水セットからシュートを沈め、意地を見せた。前橋商業も⑤椎名や⑦星が確実に得点を加え、主導権を渡さない。鳥羽は得点機会をものにしたが、リードを築いていた前橋商業が逃げ切り、試合は16-9で幕を閉じた。

勝利した前橋商業高校は、攻撃に厚みを持たせる多彩な戦術に加え、齋藤、前田、深澤ら主力がそれぞれの役割を全うすることで攻守にバランスの取れた試合運びを披露した。特に⑥前田はゴール前で圧倒的な存在感を放ち、まさに高校日本を代表するセンタープレイヤーとしてチームを勝利に導いた。

一方、敗れた鳥羽高校も決して下を向く内容ではなかった。③園と④渡邊を中心とした攻撃は最後まで粘り強く、ゴールに向かう姿勢を失わなかった。またGK①松村の献身的な守備と、組織的なディフェンスで相手の猛攻を何度も食い止めたことは、王者の誇りを示すに十分なものであった。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原